
「環境保全型農業推進のための水稲精密農業技術導入コース」及び「水田作における低コスト・省力化のための新技術導入コース」のご案内について

農林水産省農林水産研修所農業技術研修館では、都道府県職員等を対象とした新技術機械化体系導入研修2コース「環境保全型農業推進のための水稲精密農業技術導入コース」及び「水田作における低コスト・省力化のための新技術導入コース」を実施しますので、多数の普及指導員の皆様に御参加いただきますようご案内いたします。

環境保全型農業推進のための水稲精密農業技術導入コース

〔研修日程〕平成20年10月2日（木）～3日（金）

〔予定人数〕20名

〔カリキュラム〕

- (1) 環境保全型農業をめぐる情勢（講義：農林水産省生産局）
- (2) 収量コンバインの機能と効果について（講義：生研センター）
- (3) 水稲の環境保全型農業を推進する精密機械開発の現状と導入効果について（講義：生研センター）
- (4) 作物生育情報測定装置、収量コンバインの実演、実習
- (5) 課題検討（各産地の現状と課題）（討議）

水田作における低コスト・省力化のための新技術導入コース

〔研修日程〕平成20年10月16日（木）～17日（金）

〔予定人数〕20名

〔カリキュラム〕

- (1) 水田作における生産コスト削減戦略（講義：農林水産省生産局）
- (2) 不耕起乾田直播栽培稲の特徴と栽培法並びに経営的評価（講義：中央農業総合研究センター）
- (3) 大豆300A技術（浅耕播種技術等）について（講義：中央農業総合研究センター）
- (4) 汎用型不耕起播種機、大豆300A技術（浅耕播種機）の実演・実習
- (5) 課題検討（各産地の現状と課題）（討議）

〔研修場所〕農業技術研修館

茨城県水戸市鯉淵町5930-1

最寄り駅：JR常磐線友部駅下車

バスで約15分又はタクシーで約10分

〔申込締切日〕原則として、研修開始日の2週間前

〔お問い合わせ先〕

担当：飯田又は西村

TEL：029-259-2321 FAX：029-259-2589

農業技術研修館ホームページ <http://www.kanbou.maff.go.jp/atti-kensyukan/>

◇◆◇生産局生産技術課からのお知らせ◇◆◇

【第4次緊プロ事業の推進状況のお知らせと開発への協力をお願いについて】

1.（独）農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）では、「高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針（基本方針）」（平成20年5月16日告示）に基づき、農畜産物の生産コスト削減に資する機械を民間企業との共同研究により開発する「農業機械等緊急開発事業（通称：第4次緊プロ事業）」を今年度より実施しています。

開発対象機種は、以下の11機種となっておりますので、個別の機種で関心のある方は、担当までお問い合わせ下さい。

- ・いちご収穫ロボット
- ・加工・業務用キャベツ収穫機
- ・たまねぎ調製装置
- ・高機動型果樹用高所作業台車
- ・可変径式TMR成形密封装置
- ・高精度てん菜播種機
- ・中山間地域対応型汎用コンバイン
- ・果樹用農薬飛散制御型防除機
- ・高精度高速施肥機
- ・高精度畑用中耕除草機

・玄米乾燥調製システム

(参考URL)

高性能農業機械の試験研究・実用化の促進及び導入に関する基本方針
<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sizai/pdf/080409-01.pdf>

第4次緊プロ事業の対象機種（案）

http://www.maff.go.jp/j/council/sizai/kikai/07/pdf/data02_3.pdf

生研センター／プレスリリース 第4次緊プロ事業の参画企業が決定しました

http://brain.naro.affrc.go.jp/iam/Press/iam_press080602.htm

2. 第4次緊プロ事業では、生産現場のニーズに合致したより普及性の高い機械を開発するために、開発期間を5年間から3年間に短縮するとともに、新たに課題毎に生研センター、メーカー、産地、新農機（株）、行政からなるプロジェクトチーム（PT）を立ち上げ、開発の進行管理をこれまで以上に徹底しています。

3. 7月末現在、生研センターではPTを課題毎に設置し、開発目標や開発計画を検討・調整する開発課題検討促進会を順次実施しているところです。

(参考URL)

農業機械等緊急開発事業推進プロジェクトチーム（PT）の構成
<http://www.maff.go.jp/soshiki/seisan/shizai/ptkousei.pdf>

今後、PTが進行管理を進めていく中で、各種のアンケート調査のほか、試作機による産地での現地試験、現地検討会、モニター調査等の実施が必要となることも想定されます。その際には、普及組織のご支援も不可欠と存じておりますので、ご協力方お願いいたします。

【問い合わせ先】

農林水産省生産局生産技術課機械開発企画班
（8月1日以降は、農業生産支援課機械開発・安全指導班）

担当 : 吉田、石崎
TEL : 代表 03-3502-8111 内線4774
直通 03-6744-2111
FAX : 03-3597-0142
E-Mail : keita_ishizaki@nm.maff.go.jp

【平成20年度緊プロ機導入フォローアップ調査（携帯式作物生育情報測定装置）の調査ご協力の願い】

新農業機械実用化促進株式会社（新農機）では、農林水産省の農業機械化促進法に基づき、（独）農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）と民間企業が共同で研究開発した高性能農業機械（緊プロ機）の実用化を図り、普及させる実用化促進事業を農林水産大臣の認定を受けて実施しています。

新農機ではこの度、事業の一環として生研センターからの委託を受け、平成15年度に実用化された携帯式作物生育情報測定装置（※）の認知度、性能や価格に対する評価、今後の普及の見込み等について調査する「携帯式作物生育情報測定装置のフォローアップ調査」を、全国の普及指導センター、JAにおいて稲作の営農指導に係わっている皆様を対象に実施しております。

調査の対象となった普及指導員の皆様におかれましては、業務ご多忙中とは存じますが、この実態調査の趣旨をご理解いただき、郵送された調査票にご記入の上、同封の封筒で平成20年8月上旬頃までに返送いただきたく、お願い申し上げます。

【問い合わせ先】

新農業機械実用化促進株式会社
担当 : 古川
住所 : 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-12-3
翔和内神田ビル3階
TEL : 03-3233-3834 FAX : 03-3233-3800
電子メール : shinnouki@gol.com
ホームページ : <http://www.shinnouki.co.jp>

(※) 携帯式作物生育情報測定装置の概要

1. 概要

携帯式作物生育情報測定装置は、作物群落からの反射光を計測して、作物の生育状態を判定する装置です。測定者が本装置を携帯して圃場に入り、装置先端のセンサー部を作物の上にかざし、手元の測定ボタンを押すだけで、

センサー直下の作物の生育状態を瞬時に測ることができます。

現在は、主として作物情報の蓄積が多い水稻に用いることができます。
この装置を用いると、圃場ごと、あるいは圃場内の位置別に水稻茎葉の窒素
吸収量を推定できます。この結果を用いて、適正な追肥時期に適正な追肥量
を施用することが可能となり、水稻の品質向上、収量向上、倒伏防止、施肥
量の節減などに役立てることが出来ます。

2. 携帯式作物生育情報測定装置の特長

- ① 一回の測定に要する時間は、数秒程度で、極めて省力的です。
- ② 一回の測定範囲は、直径60cm（水稻ではほぼ8株に相当）です。
- ③ 測定時間は、連続7.5時間です。
- ④ 最大2,000点（箇所）のデータを記憶できます。
- ⑤ GPSを接続できるので、測定位置を記憶できます。
- ⑥ 記憶したデータはコンピュータに転送し、演算・分析できます。
- ⑦ 圃場内で多点測定を行うと圃場内の生育マップを作成することが出来ます。

3. 参画企業

（株）荏原製作所、（株）荏原電産、静岡製機（株）、ヤンマー農機（株）

4. 携帯式作物生育情報測定装置について紹介しているHP

<http://brain.naro.affrc.go.jp/PF/keitai/keitai.htm>（生研センター）

<http://www.shinnouki.co.jp/kinpuro/kinpuro06-1-10.html>（新農機）

◇◆◇技術会議事務局からのお知らせ◇◆◇

「平成20年度地域マッチングフォーラム」について

現場ニーズを踏まえた農業研究の推進と研究成果の周知、普及促進のため、
生産者、普及関係者、研究者等が双方向の意見・情報交換を行う地域マッ
チングフォーラムを開催しますので、皆様ふるってご参加ください。

○九州沖縄地域マッチングフォーラム

テーマ：「環境に優しく安全・安心な農畜産物生産のための革新技術」

日 時：平成20年8月19日（火）10:00～16:10 無料

場 所：熊本県立大学（熊本市月出3丁目1番100号）

主 催：農林水産技術会議事務局・農研機構 九州沖縄農業研究センター

<http://qnoken.ac.affrc.go.jp/presentation/2008/program.html>

♠・編集後記・♪

巷にエコという言葉が氾濫するようになり、中にはその内容や効果が疑わし
いものもありますが、10～20年前に比べ、一握りの学者や活動家だけ持っ
ていた意識が、多くの人々に少しずつでも共有されていくという点では意味
のあることかなと思います。

しかし、環境の悪化が負の連鎖で加速度的に進行するのに比べ、改善して
いく速度は、様々な国際会議などの状況を見ても、遅々としたものに感じられ
てなりません。

最近でも、様々なバイオマスの活用等、革新的な研究内容などを耳にしたり
もしますが、「今の生活を変えずに上手に技術を使えば良い」などといった姿
勢では心もとない気がします。江戸時代の生活に戻れというのは無理としても、
まだまだ直線的な経済成長観念から脱却できていないのではないのでしょうか。

第24号から約2年半にわたり、このe-普及だよりの編集を担当してきま
したが、私の編集は本号で最後となります。

普及指導員の皆様の現場での普及活動の充実と、このe-普及だよりがこれ
からも皆様のお役に立つことを期待しております。

ありがとうございました。

@ 編集委員U ◎

このメールマガジンに関するご意見・ご要望などがございましたら、下記まで
ご連絡願います。

• TEL : 03-3501-3769

・農林水産省ご意見・お問い合わせ窓口：

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=4

バックナンバーは、普及事業ホームページ

<http://www.maff.go.jp/soshiki/nousan/fukyuuka/newsite/e-bn.htm>

から閲覧できます。

配信先の変更、配信停止等につきましては、農林水産省のホームページから手続きをお願いいたします。

農林水産省ホームページ・報道・広報→メールマガジン→配信変更・配信解除
(パスワードが不明な場合はパスワード再発行)へ進んで手続きをお願いいたします。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

* * * **ご注意** * * *

メールマガジンに記載したURLで、一部PDF形式のものがあります。

PDFファイルをご覧頂くためには、[農林水産省ホームページ](#)にある

「Get Acrobat Reader」のボタンでAcrobat Readerをダウンロードしてください。